

令和 7 年度第 2 回

富士見市史跡水子貝塚保存整備委員会

議事録

日 時	令和 8 年 3 月 24 日 (火)		開会	午後 14 時 00 分		
			閉会	午後 16 時 00 分		
場 所	富士見市立水子貝塚資料館					
出席者	委 員	阿部委員	森屋委員	佐々木委員	大竹委員	和田委員
		○	(欠席)	(欠席)	(欠席)	○
		鈴木委員	井上委員	山口委員		
		○	○	○		
	オブザーバー	埼玉県教育局文化財・博物館課 倉澤主査				
事務局	水子貝塚資料館 堀、大野					
公開・非公開	公開 (傍聴者なし)					
議 題	1 開会 2 議題 (1) 史跡水子貝塚の整備に伴う基本設計について 3 その他 4 閉会					

議 事 内 容

1 開会

2 議題

(1) 史跡水子貝塚の整備に伴う基本設計について

事務局 史跡水子貝塚再整備については、今年度を通して基本設計の作成を進めているところだ。作成にあたっては、委託業者や文化庁調査官等と意見を交換して進めた。また先の第1回委員会においては、中間案を委員の皆様の説明し意見を伺った。先日、これらの話し合いをもとに、基本設計の最終的な案が固まったところだ。本日はこの案について説明し、委員の皆様から意見を伺いたい。

事務局 まず、エントランスゾーン、学習ゾーン、縄文時代の体験学習ゾーンについて説明する。

(資料説明)

ここまでの内容に関して、ご意見をうかがいたい。

委 員 展示館の改修について、遺物解説コーナーにおいては、かつて「水子式土器」として提唱された土器群や、前期の繊維土器についての解説を設けるなど、水子貝塚の来歴・特徴をより表す展示解説が望ましい。また、土器・石器など遺物の種類ごとに分けた展示だけではなく、それらを一括して、生活様式の1セットとして例示するようなコーナーがあると見学者が理解しやすい。貝塚の解説コーナーにおいては、成長線分析や廃棄ブロックについてなどにも踏み込んだ内容の解説を行うことで、貝塚遺跡としての重要性のPRになる。出土人骨については復顔を行うとのことだが、依頼から完成までの程度の期間がかかるのか確認しておいたほうがよい。食性分析の成果も解説するべきである。また、市民学芸員制度の来歴や活動の様子も、市民協働の歴史として展示の一面に加えることができるとよい。復元住居の改修や、それに伴う解説等についてはどのような計画か。

事務局 復元住居に関することについては、予算的な制約などから再整備計画にはあまり組みこめていない。資料館で屋外展示に関する事業を行うなどして、カバーしていきたいと考えている。

委 員 展示館の改修について、改修後の状態で学校など団体での見学は対応できるのか。

事務局 スクリーンに投影する説明映像は多人数で見学できる予定だが、各展示コーナーは班に分かれるなどして交代で見学することを想定している。結果として、現状での展示館の団体見学の状況からは大きくは変わらないと考えている。

委員 厨房施設の活用方法について、どのような内容を想定しているのか。

事務局 過去、資料館事業として、復元土器を使った煮沸調理の体験や、「縄文クッキー」や「貝層パフェ」づくりなどを実施しており、厨房施設はこれらの体験事業を実施していくうえで活用できると考えている。また、イベント時の利用や貸し出しなどについても検討中である。

事務局 次に、植栽計画について説明する。
(資料説明)
ここまでの内容に関して、ご意見をうかがいたい。

委員 園内の樹木も一種の展示物のようにとらえるべきで、仮に時代にそぐわない樹木があるエリアがあったとしても、ゾーン分けしてその旨の説明などが備えられていれば大きな問題はないように思う。また、他の遺跡公園に無いような水子貝塚独自の要素があれば売りになる。
植栽エリアについては、この試みを見学者にも解説・アピールしていくべき。クリを植えるエリアにおいては、クリが部材として用いられていた側面についても含めた解説を考えてほしい。

事務局 計画の参考とさせていただく。

事務局 次に、排水計画、舗装計画、サイン・看板について説明する。
(資料説明)
ここまでの内容に関して、ご意見をうかがいたい。

委員 新設予定の雨水枡の掘削は、盛り土を掘り抜かない深度と考えてよいのか。

事務局 その通りである。

委員 園内説明版は日本語表記のみなのか。

事務局 スペースの都合上、複数言語の併記は難しい。QRコードでリンクさせるような形で、デジタル上での別言語解説へ誘導するという手段は考えられる。

委員 英語表記だけでも小さく併記するのはどうか。議題とはやや外れるが、配布パンフレットにも英語版があるとよい。

事務局 計画の参考とさせていただきます。

事務局 今後のスケジュールとしては、令和8年4月以降に園内の測量を実施し、その結果も元にしながら実施設計を令和8年度中に行う。令和9・10年度には工事が入る予定で考えており、より具体的なスケジュールを現在検討中である。今回の委員会でいただいた意見も踏まえて、再整備事業を進めていく。

3 その他 特になし

4 閉 会